

# 第1学年国語科学習指導案

日時 平成17年9月2日(金) 2時間目

場所 衣川村立 衣川中学校 1年A組(男子14名、女子17名)

指導者 関川 玲子

## 1、単元名 作者の思いをとらえよう(開発教材)

作品名 高村光太郎「冬が来た」(詩)

## 2、単元について

### (1)教材観

冬の厳しい寒さは、生き物たちの命を脅かし、人間の生活を困難にさせる。しかし、作者はそんな冬の厳しさを求め、自分の力に取り入れようとしている。そして、冬という季節の厳しさをうたいながらも、詩全体からは、そんな冬への愛着や冬の訪れを喜ぶ気持ちが伝わってくる。

彫刻家でもある光太郎は、冬の時期も花巻の高村山荘にこもり、あえて厳しい寒さに身を置きながら作品を作った。第二次大戦に賛同する活動をしたことへの償いのための行動であるともいわれており、信念を持ち、自分に対して厳しい生き方を強いる作者の生き方が作品に反映されているといえよう。

また、この詩全体が暗喩にもなっており、「冬の厳しさ」は、「人生の厳しさ」ととらえることもできる。そう考えたとき、「冬よ/僕に來い/僕に來い/僕は冬の力/冬は僕の餌食だ」には、辛さや苦しさに立ち向かっていこうという前向きな気持ちや、困難は自分を成長させてくれるものだという、人間の力強い生き方を読み取ることができると考える。

### (2)生徒観

生徒は、小学校で谷川俊太郎「生きる」、まどみちお「夕日が背中をおしてくる」、宮沢賢治「雨二モマケズ」、金子みすず、などの詩を学んできている。しかし、日常の読書活動で詩を進んで読んでいる生徒はほとんどおらず、「詩を読むことに興味があるか」に対して、「とてもある1名」「まあまあ11名」「あまりない14名」、「嫌い4名」(30名中)であった。「とても興味がある、まあまあ」と答えた生徒のほとんどが「面白い詩があるから」と答えていた他「現実ではあり得ないことも表現できてわくわくする」「新しい発見がある」「心が和む、落ち着く」「悲しいときや寂しいときに読むと勇気づけられる」などがあつた。

また、「あまりない、嫌い」と答えた生徒からは、「難しい言葉がでてきて意味がわからない」や「作者の気持ちがよくわからない」などとする回答があつた。

詩に触れる機会が少なく、また、難しい語句や表現を用いた詩の読み取り方が分からないため、作者が詩に込めた思いを読み取れず、詩の素晴らしさを実感できない生徒が多いと思われる。

### (3)指導観

どんな作品にも、作者の伝えたい思いが込められている。読者は、特に意識しなくても伝えたいことは何かを探りながら読んでいるが、読み取りの技法がないために、作者の思いを読み取れないことも多い。そこで、作者の思いを読み取るための手だてを与え、技法を身につけさせることで、自分の力で作者の思いを読み取ろうとする態度を養いたい。また、詩を読み取ることで、人間の生き方や自然、命などを深く見つめた詩の素晴らしさに気づき、自分のものの見方考え方を広めたり、進んで詩を読んでみようとする気持ちを育てたい。

本単元では、「紙風船」(黒田三郎)と「冬が来た」の2編の詩で読み取りの技法を身につけていく。2編とも、詩全体が暗喩となっており、主題が隠されている詩である。中学校1年生には、隠された意味を自力で読み取することは難しいが、主題を読み取るための視点を与え、それを学習課題とし、グループで学び合う場面を設けることで、目的意識を持ち、主体的に課題を解決しようという意欲を持って学習に取り組ませたい。

### 3、単元の指導目標及び評価規準

#### (1) 学習指導目標

作者が伝えたかったことを読み取り、自分のものの見方や考え方を広める。

#### (2) 評価規準

##### 「関心・意欲・態度」

関心を持って聞こうとしたり積極的に自分の考えを述べようとしている。

詩の面白さに関心を持ち、進んで読み取ったり、他の生徒に学んだりして主題に迫ろうとしている。

##### 「読むこと」

・表現に即して読み取ったり、他の人の読みに学んだりして、内容を読み取るようとしている。

(読 工)

・作品に現れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広めようとしている。

(読 才)

### 4、単元の指導・評価計画

(1) 「紙風船」を読み、詩の読み取り方を学ぶ。(2時間)

(2) 高村光太郎「冬が来た」を読み取る。(1時間)

### 5、本時の指導

#### (1) 本時の指導目標

グループでの読み取りや発表を聞く活動を通して、互いの読み取りの良いところに気づき、詩の読み取り方を学ぶと共に作者が詩を通して伝えたかったことを読み取る。

#### (2) 評価基準及び具体的評価規準

評価規準	評価の場面及び方法	具体的評価規準		支援を要する生徒への支援
		A	B	
他の人の読みから学ぼうとしている「読むこと」	学習プリントへの書き込みや学び合いの様子による。	根拠を基に自分の考えを述べたり、メモをとったりして、積極的に学ぼうとしている。	真剣な態度で学習に参加し、メモをとりながら学ぼうとしている。	机間指導でメモするよう指導する。
作者の伝えたかったことを読み取っている「読むこと」	学習プリントへの書き込みや発表場面による。	根拠を基に、作者が伝えたかったことを学習プリントにまとめている。	作者が伝えたかったことを学習プリントにまとめている。	机間指導で、メモや板書したことを基に、まとめるよう支援する。

